

JA 綱領

わたしたちは、

1. 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
1. 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
1. JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
1. 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
1. 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがい追求しよう。

経営理念

1. 私たちは、「全ては組合員のため」という奉仕精神のもと、多様化する組合員ニーズに的確に応え、その健全経営の手助けを行います。
1. 私たちは、組織・事業活動を通じて、組合員、利用者、地域から信頼される人材づくりに努めます。
1. 私たちは、食と緑を守り、地域農業を振興することで、地域社会の活性化を図ります。

経営信条

組合員との信頼関係構築の第一歩は、現場に出向き、現場とのコミュニケーション活動を通じて現場を知ることにあります。

事業運営方針

1. 市場原理の選択競争の中でも、生き残っていただける強固な事業運営方式を確立します。
1. 民主的運営を基本に組合員への校正・公平なメリットの還元を追求します。
1. リスクを見極めながら、新たな事業運営に積極果敢に挑戦する自己決定・自己完結型の経営を目指します。

「組合員とともに、
組合員による、組合員のため」の
地域に貢献する
魅力あるJA、
選ばれるJA」
を目指します。

TOP MESSAGE 2020

きたみらい農業協同組合

代表理事組合長 西川 孝範



皆様方には、日頃より当JAきたみらいの事業につきまして、多大なるご協力・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

JAきたみらいは、平成15年に8つのJAが合併して誕生した組織で、北見盆地の輝かしい未来を願い「北見(きたみ)」と「未来(みらい)」をあわせ『きたみらい』と名づけられました。当地区の農業は、玉ねぎ・じゃがいもを中心に麦類、てん菜、豆類、水稻などの耕種作物に加え、生乳をはじめとする畜産物を多様に生産しているのが特徴で、その販売高は全道ではもちろんのこと、全国でも有数の取扱いとなっております。

さて、農業・農協を取り巻く情勢において、先行き不透明感が増大する変化の中にあり、令和元年度は日欧EPAや日米貿易協定の発効、公認会計士監査への移行など、農業・農協にとって大きな動きのある一年でした。

特に、国際貿易交渉の状況については、日米貿易協定の影響による国内農業生産額の減少が懸念されており、その多くが北海道農業で発生すると試算もありましたが、世界的なコロナショックの拡大により世界経済は一変し、海外依存していた食料・物資のサプライチェーンが分断され、国民の生活と安全にも支障が出るような状況となっております。

あらためて、国内供給体制の重要性を目の当たりにしたところですが、今後は国内回帰への動きにもあわせ、消費者の皆さまから「食と農」に対する理解をいただきながら、農畜産物の安定供給をさらに進めるために、持続可能な食料生産・流通体制の強靱化を関係先にも働きかけ、万全な対応がな

されるよう取り組んでまいります。

そのような中、JAグループ北海道では「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現を基本目標として、平成27年11月より継続的に取り組んでおります。当JAにおいては、組合員・組合員家族・役職員が各役割を再確認した中で、JAグループ北海道の英知を結集し、基本目標の達成に向け取り組んでいくとともに、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJAを目指します。

さらに、近年、異常気象が頻発する傾向があることから、気象変動に負けない農業の確立に向けて、土地改良・技術導入等、種々の対策に取り組み、また収量・品質の安定化のため、輪作体系の再構築によって農業経営の安定、所得の向上を目指します。

これからも、JAきたみらいでは、全国の消費者の皆様へ「安全・安心」な農畜産物を安定的に供給することにより社会的責任を果たして参ります。そのためにも、組合員をはじめ青年部・女性部・フレッシュミズ・役員・職員が、JAの課題を共有し、課題解決に向けて共通認識を図り、人づくり基本方針の実践に向け、組織全体として協同組合活動の取り組みを強化して参ります。

また、信頼される組織作りを目指し、法令、企業倫理の遵守を強化するため、コンプライアンス推進と整備を進めるとともに、コーポレート・ガバナンス体制のさらなる強化、組合員・消費者の満足度向上、CSRや社会貢献活動の推進、人材育成の一層の充実などに継続して取り組んで参ります。